

大	学	名	京都大学
---	---	---	------

[構想の概要](組み立て直し後修正変更版)

「京都大学次世代地球社会リーダー育成プログラム (Kyoto University Programs for Future International Leaders: K. U. PROFILE: ケーユープロファイル)」の概要

世界を取り巻く現代的な課題には、環境、エネルギー、都市化、貧困と人間の安全保障などがあげられる。これらの問題を解決し、安定した地球社会の発展に貢献することは高等教育機関に課せられた重要な使命である。京都大学はその理念のなかで「教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力を持つ人材を育成すること」を謳っている。この理念に基づき、京都大学では**K. U. PROFILE**の構想を提案する。

1. K. U. PROFILEの目標と達成のための施策

K. U. PROFILEの目標は、京都大学の世界最先端の独創的な研究資源を活かし、地球社会の現代的な課題に挑戦する次世代のリーダー育成のための教育である。成長著しい**アジア**、人材開発が喫緊の課題である**アフリカ**、研究・教育の蓄積豊富な**欧米**からの優れた留学生を集め、ともに学ばせる。併せて周辺の大学と協力し、日本の大学の充実した海外ネットワークを活用し、日本人学生の海外体験を促進し、世界のリーダーとなる国際人を育てることを目指す。目標達成の施策は以下の通りである。

① 優れた留学生獲得のために**英語のみで学位を取得できるコース**を新設する。学部英語コースのさきがけとして、アジアを中心とする途上国の都市開発・社会基盤整備・防災など幅広い分野に対応できる人材開発を目指す「地球工学科国際コース」を開設する。同時に、環境・エネルギー・防災・生命・農業・情報・霊長類研究・経営など本学独特の最先端科学を探究する8研究科・研究所において英語のみで修士・博士学位の取得できるコースを開設する。このため、国際公募により外国人教員を採用するとともに、日本人教員の海外研修を実施する。

② 多くの研究所を持つ本学の特色を活かし、研究所の多様な教員の協力を得て、少人数教育、フィールド実習など**国際競争力ある教育**を実施し、国際的人的ネットワークの構築を行う。

③ **ベトナム、エジプト**および**中国**を**受入重点国**として設定する。本学はベトナムにおいてアジア・プラットフォームを設置し、最先端の防災・環境プロジェクトを実施している。また、アフリカにおいては長いフィールドワークの伝統を持ち、現在はエジプト日本科学技術大学 (E-JUST) の設立に深く関与している。ベトナムに設置した拠点では、日本の大学による情報発信や留学生受入れなど、現地で活動するための**共同利用拠点**とする。中国では、重点大学を中心に、平成20年度に任命した海外アドバイザーを通じて優れた学生の招致活動を実施している。

④ **英語での学生選抜**という新しい試みのため、日本留学試験・当該国の統一試験・IELTSやTOEFLの活用、遠隔テレビ会議を利用した面接などの工夫を行っている。この際、アジア・アフリカに広がる本学卒業生のネットワークを活用し、**国際的な留学生獲得網**を整備する。

⑤ **留学生受入環境の整備**として、秋期入学の導入、留学生宿舎の増設、英語に堪能な職員の採用・配置・教育、日本語日本文化教育の強化、生活アドバイザーの増員、日本人学生による支援サークルへの援助などを行っている。これまでの実績を踏まえ、卒業後のキャリア形成を意識した教育を行い、**日本での就職**を含めての指導を行う。

⑥ 欧米の協定締結大学と連携し、京都の特性を活かした「京都で学ぶアジア学と日本学」などを含む柔軟で多様性の高い**短期交流プログラム**を実施して行く。また、**日本人学生の交換留学**を促進し、日本人学生の海外体験に資する国際交流プログラムを充実させる。

⑦ 他大学とのネットワークを構築し、海外に向けての情報発信や留学生に対する教育・就学支援や日本人学生の海外体験の促進において連携・協力する。

⑧ 産業界との連携体制を構築し、卒業後の進路と言う出口戦略を見据えた教育活動を展開する。

2. K. U. PROFILEの実施体制

第二期中期目標・中期計画においても、教育の国際化は本学の重点目標の一つである。**K. U. PROFILE**については**総長を最高責任者**として、**学生担当理事**等が実施責任者となる**全学体制**を敷き、外国人・日本人外部委員による**学外諮問委員会**を設置し、全学体制で臨んでいる。

3. K. U. PROFILE の10年後の目標

K. U. PROFILEの実施により、外国人正規学生および海外協定締結大学からの受入学生を増加させ、平成32年度には本学の留学生受入れ数を3,200名、外国人教員比率10%程度とすることを旨とする。

K. U. PROFILEを遂行し、周辺大学とともにこれらの目標を達成することによって、我が国の高等教育は国際的により一層魅力あるものとなり、国際的な知の創造に貢献するとともに、我が国の国際的地位の向上に大いに寄与することとなる。

[取組実績の概要]

・拠点大学の国際化

第二期中期目標(平成22年度～)における、「学生海外派遣制度を充実させるとともに、留学生受入れ体制を強化する。」という教育の国際化目標に基づき、その促進のための各種取組を行った。

日本人学生の海外派遣については、本学の大学間学生交流協定締結数を増加させることで、学生の海外交換留学先の選択肢を広げることができた。その結果、学生交流協定校への海外派遣実績は、平成20年度には合計52名であったが、平成25年度には合計192名となり、派遣学生数が増加した。

留学生受入れ体制の強化については、次の取組を行うことで、留学生の受入れ環境改善が図られた。

- 1) 海外受験の利便性向上のため検定料納付にクレジットカード決済の仕組みを導入。
- 2) 学部のG30英語コース入学者に対して、入学金と同額の奨学金を給付。
- 3) 私費留学生として入学したG30英語コース入学者に対して、学部生は初年次と2年次、大学院生では初年次の授業料免除を実施。
- 4) 英語のできる職員の全学配置。
- 5) 学内文書の英文化実施と成果の他大学への発信。
- 6) 就職支援として近隣の大学と共同でジョブフェアや留学生の工場見学を実施。

また、平成25年度に京都大学の新たな国際戦略「2x by 2020」(ダブル・バイ・2020)を設定し、全学の国際化を図っていくこととなった。

・英語による授業のみで学位が取得できるコース

本事業で計画された英語のみで学位が取得できるコースの開設は計画通り進められ、平成24年度中に、学士課程1コース、修士課程11コース、博士後期課程・博士課程9コース全てのコースの開講が完了した。また、学部教育における英語授業を充実させるため、従来の受入れ交換留学生向けの英語科目(KUINEP: Kyoto University International Education Program(京都大学国際教育プログラム)科目)に加え、学部生向け全学共通科目として25科目の英語による講義を開講した。さらに、国際高等教育院の下で平成26年度に学部生向け全学共通科目としての英語科目を新たに100科目提供するための整備を行った。その結果、英語での授業が全学に浸透し、学生の選択肢が大幅に増えた。

・留学生受入のための環境整備

本事業における留学生受入重点国のベトナムでは、平成22年9月、ベトナム国家大学ハノイ校内に、京都大学-ベトナム国家大学ハノイ共同事務所(VKCO: Vietnam National University, Hanoi-Kyoto University Collaboration Office)を開所した。VKCOを活動拠点として、日本留学に関する広報活動、奨学金獲得を目指すベトナム人学生のためのセミナーの開催、シンポジウムの開催等により、ベトナム人留学生の獲得に係る取組を積極的に行った。

また、他の留学生受入重点国であるエジプト、中国からの受入れを促進するための各種取組を併せて行った。

その他、留学生宿舎の拡充、学内文書の英文化作業、学生への経済的支援(奨学金支給、授業料免除)、留学生への就職支援、入学検定料の納付に係るクレジットカード決済システムの導入、渡日前入学許可制度を促進するための出願書類等選抜の際の入学検定料引き下げに係る規定整備、日本語教育制度の充実、といった留学生受入のための環境整備の取組を行った。

・海外大学共同利用事務所の整備

京都大学-ベトナム国家大学ハノイ共同事務所(VKCO)では、職員のための作業環境整備、現地の日本留学希望学生のための環境整備、遠隔システムの導入など施設整備、体制整備が計画通り行われた。また、平成24年に同大学内で事務所移転を行った結果、遠隔システムを導入した部屋が大きくなるなど、利用者の利便性が向上した。

本共同事務所は、グローバル30における日本の大学の海外大学共同利用事務所として、ベトナム人留学生獲得に積極的な大学の現地入試面接のために遠隔システムが利用されるなどした。

・目標の達成状況

留学生受入については、平成25年度末の留学生数実績が2,244人となり、構想計画時の平成25年度末目標であった留学生数2,121人を上回り、目標を達成した。

外国人教員数については、平成25年度末の実績が256人となり、構想計画時の平成25年度末目標であった220人を上回り、目標を達成した。

大学間交流協定等に基づく交換留学の拡大については、平成25年度末の実績が派遣192人、受入172人となり、構想計画時の平成25年度末目標であった派遣、受入各150人を上回り、目標を達成した。